

はなわ 議会だより

2017
No.137

発行/福島県埴町議会
平成29年1月27日



冬のおはなし会

図書館

12月定例会

- 議員の期末手当増額せず……………P 2～3
- はなわこども園特集……………P 8～11
- 敬老会など8議員が町政をただす……………P 14～21
- 笹原小学校議会傍聴……………P 22～23

12月定例会

12月定例会のあらまし

12月定例会は、12月15日から19日までの5日間の会期で開催しました。第1日目は、提出議案の一括説明の後15件の農業委員会委員の選任を同意、陳情1件、議案1件を総務常任委員会に付託しました。第2・3日目に、8人の議員が一般質問を行い少子化問題や敬老会などを取り上げ、町政をたいただきました。最終日は、議案審議を行い、条例1件（議員報酬）を否決、そのほかの議案は全会一致で可決しました。その他、意見書1件を可決して、閉会しました。

定数と報酬検討中のため

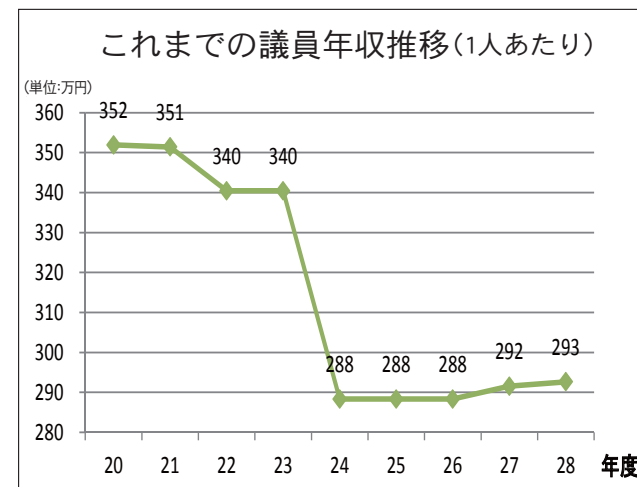
議員の期末手当増額せず

期末手当とは、年2回在職期間に応じて支給されるもので、民間企業でいうボーナスである。議員には、報酬と合わせ年総額292万6220円支給されている。（議長と副議長は異なる）

報酬は、議会で検討し自らその額を決定するが、期末手当は県の人事委員会勧告にならって改正してきた。今回、職員のボーナス（期末手当+勤勉手当）を

0・1月分引き上げ増額支給する人事委員会勧告がなされ、それに準じて、議員の期末手当も同様に0・1月分引き上げ、年2万1620円の増額支給をするという議案が町から提出された。

議会は、7月に議員定数等検討協議会を立ち上げ、定数と報酬を検討している最中であるため、今回の期末手当増額は時期尚早と判断し、この提案を全会一致で否決した。

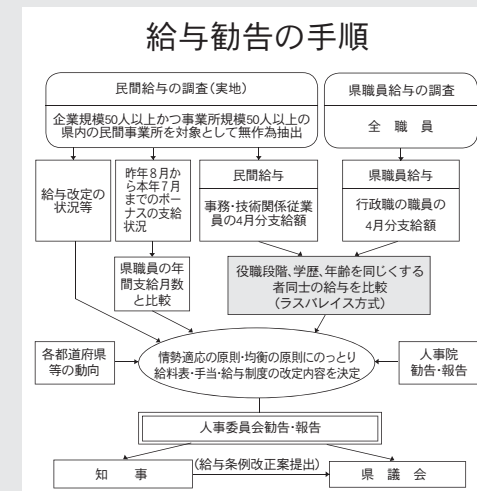


平成23年度にも議員定数が検討されているが、結局議員定数は現状維持とし、報酬を削減する(議員2名分相当)としたため、大幅減となっている。

人事委員会の給与勧告制度

公務員は、労働基本権が制約され、民間企業のように労使交渉によって給与を決めることができない。この代償措置として、県の人事委員会で給与勧告制度が設けられている。

給与勧告は、社会情勢に適した給与確保を目的に、国及び地方公務員と民間企業の給与水準を均衡させることを基本に勧告が行われている。町では、人事委員会の給与勧告によって職員の給料表の改定などを行っている。



一 期末手当の算出方法

議員の期末手当は、月額報酬に支給率と加算率を乗じて出される。役職によって加算される加算率は、報酬月額15%以内で町長が定めることとなっている。

月額報酬	議長	副議長	議員
272,000円	206,800円	188,000円	188,000円

二 期末手当(6月)

議長	副議長	議員
50,000円	37,900円	32,400円
48,000円	35,000円	30,000円
40,000円	29,000円	24,000円

近 他町村の状況
隣町村の報酬や期末手当をまとめてみた。

2万2623円低い報酬額となっている。

議員報酬比較

町村名	人口	議員報酬
埴町	9,254人	188,000円
棚倉町	14,541人	225,000円
鮫川村	3,722人	161,000円
矢祭町	6,089人	日額30,000円
西郷村	20,070人	240,000円
西会津町	6,834人	225,000円
猪苗代町	15,007人	211,000円
国見町	9,568人	228,000円
県平均		210,623円

期末手当比較

町村名	支給率/100		加算率(%)
	6月	12月	
埴町	150	160	15
棚倉町	150	160	15
鮫川村	160	175	15
矢祭町	—	—	—
西郷村	150	160	15
西会津町	150	160	15
猪苗代町	150	160	15
国見町	140	155	15
県平均	147.22	157.22	14.77

県町村議会議長会資料(平成28年7月1日現在)

さらなる議会機能発揮を 議員定数・報酬調査!!

10月12日(水)、本町議会の定数などの見直しの参考とするため、2つの議会の議員定数見直しの取り組みを視察しました。(議員定数等検討協議会報告書から)



西会津議員の皆さんと協議委員。西会津町議会では昨年3月議会で議員報酬を引き上げた。

西

会津町議会は、現在議員定数の見直しを含めた議会活性化の調査検討を行っています。町民から議員定数削減という声が上がっています。が、果たしてそれが本来の議会活動にどれだけの効果があるのか。若い人で議員になろうという人がますますいなくなるのでは。などの意見が出され活発な意見交換になりました。

次

に、昨年9月議会で議員定数を16人から15人にした猪苗代町議会を訪問しました。同議会では、かなり前から定数見直しの動きがあったようですが、議会の機能低下にならないかなど議論を重ねた結果、1人削減に落ち着いたとのことでした。多くの議員は、議員定数削減は議会機能低下につながるという危惧している一方、町民の声を無視できないというジレンマの中にいるように感じま

専決処分

◎一般会計補正予算(第3号)

2945万円を増額し、総額7億728万9000円とする。

国道289号線の光ファイバー支障移転工事、災害復旧費(町道17力所、普通河川5力所)、農地災害復旧費(19力所)の増など。

◎専決処分

議会の権限に属する事項について、町長が議会に代わって意思決定を行うこと。緊急性を要し、議会を招集する時間がない場合などに行うことができる。専決処分を行った場合は、次の議会に報告し承認を得なければならぬ。ただし、承認されなくても決定内容は有効とされる。

質疑

本当に緊急性があったのか。

答弁

災害が起きたらすぐに設計や査定を受けなければならぬ。

らない。今回は災害発生の日後に専決の決定を行った。

補正予算

◎一般会計補正予算(第4号)

1億6266万1000円を増額し、補正後の額を73億3995万円とする。

仮設保育室建設の増、除染土壌の撤去工事費の増、旧こんにやく試験地整備の増など。

質疑

旧こんにやく試験地を整備するのはなぜか

答弁

旧薩摩酒造跡地などで行っていた竹活用事業を集約し、地方創生の拠点としたい。

質疑

道の駅脇に河川公園を整備する計画はどうなっているのか。

るのか。

答弁

久慈川の合流点に親水公園の計画はあるが、予算が厳しく実現には至っていないので、草刈り機などで手入れを行い、河川の景観を整備する。

質疑

各地区の除染土壌も町が全て撤去すべきでは

答弁

撤去することになっている。

意見書

◎地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書

国民の幅広い政治参加や地方議会における人材確保の観点から、地方議会議員の厚生年金制度加入のための法整備を早急に実現するよう強く要望するため、埴町議会として意見書を可決し、内閣総理大臣ほか6関係行政庁に意見書を提出した。

◎意見書

町の公益に関する事件について、町の議決機関である議会の意思を決定し、国・県などに表明するもの。対外的に意思を表明し、公共の利益の増進を図る議会の権限として法律に定められている。

同意

◎農業委員会委員の任命について

これまで農業委員の選出は、選挙で行われていたが、町長が議会の同意を得て任命する方式に改正された。法改正後、初めての改選となり提案のあった15人全員を同意した。

- 小林 達信(桜木町)
- 小松 孝行(西河内)
- 鈴木 孝久(大蔵)
- 鈴木 伸俊(前田)
- 星 正人(山形)
- 佐藤 能昭(板庭)
- 金澤 博志(植田)
- 戸井田 操(台宿)
- 大森 秀夫(那倉)
- 佐藤 政義(八幡)
- 鈴木 良一(片貝)
- 佐川 庄二(伊香)
- 大友 晴男(東河内)
- 白坂 利雄(上洪井)
- 鈴木 芳昭(中塚)

ひとこせインタビュー

12月の定例会の傍聴者数はのべ110人でした。傍聴された方の中から、荒川実さん(連合区長会長)に傍聴した感想などをインタビューしました。

建設的な姿勢で 魅力ある町づくりを

荒川 実さん(連合区長会長)

傍聴したきっかけは

行政区長の研修の場として、12月の第9回定例会を傍聴させていただきました。

傍聴された感想は どうでしたか。

熱心さは伝わりましたが、質問と答弁で論点が噛み合わない点や、この答弁のまま終わって良いものかなど気になる点があり、再質問などでもう少し突っ

込んだやり取りがあっても良いのかと思いました。

議員に対する要望は ありますか

制度や手法などを見直す視点が必要と考えます。また、批判や非難よりは、工夫や提案による建設的な姿勢で魅力ある町づくりに努めていただくことを望みます。

議会や町政に対する 要望はありますか

社会・経済などの見通しを踏まえて、住みたい、住み続けたい町にしていきたい。めには、自助・共助・公助を、より意識した町民全体で実行する町づくりが望まれます。効率的・効果的な町政運営が求められ、交通や情報通信が進展する中であって、広域的な観点で、近隣市町村との役割分担や連携も模索していく必要があると考えます。

議会議員と意見交換しませんか

議会議員と意見交換会をする団体を募集しています。町民または町内に勤務しているグループが対象で、少人数でも受け付けています。お申込みは、議会事務局(TEL43-2150)までご連絡ください。

これを見れば議会がわかる

埴町議会ではホームページやフェイスブックで活動状況をお知らせしています。会議録、自筆の活動報告書や賛否の状況、会議などの出欠、議会だよりに掲載できない情報もちらに掲載しています。

埴町議会検索

あぶくま高原美術館廃止計画が提示される

まちの未来どう描く

平成29年度から平成31年度までの埴町振興計画（実施計画）案と財政状況及び財政見直しについて、町から説明を受け質疑を行った。実施計画は、町の向こう3年間の計画で毎年12月に検討が行われてきた。今回は予算決算常任委員会の所管事務調査として、会議は公開して行った。新町長になり初めての実施計画提案であったため、政策転換された計画がいくつかみられ疑問点をただした。



費用対効果に問題があり廃止計画が提示されたあぶくま高原美術館

一 財政見直し

今後の財政見直しによると、10年後の財政不足は2億3700万円、比較的安全した財政運営を見込んでいる。しかし、あくまで現在の制度が続くと仮定しており、国の財政状況を考えると決して安心できるものとはいえない。

歳入のうち町税は当面8億7000万円、平成28年度見込8億7400万円を維持する見込みで交付税などが現行水準であれば、補助金や借入などを除く一般財源は36億円で、平成31年度まではほぼ横ばいで推移する見込みである。

一方歳出は、人件費は微減であるが扶助費や公債費が増加傾向にあり、他の歳出の抑制が必要となっている。具体的事業計画は、これまでの継続事業のほか、子ども園整備事業や公民館

分館建設事業、住宅団地建設事業などが計上されている。

一 見直された政策

主な見直し事業は、町が開催していた敬老会を各行政区が主体として行うための敬老会助成事業、若者向け住宅建設から土地を分譲とする子育て若者定住住宅団地整備事業、健康福祉施設から子ども対策に特化した子ども園整備事業、あぶくま高原美術館の廃止で、今後見直し内容に沿って具体的に検討されることになる。

健康福祉センター

以前計画されていた健康福祉センターは、保育園と幼稚園を統合した子ども園と子育て支援のほか、高齢者ケアを行う多世代交流センターと高齢者向け住宅の3施設が検討されていた。

A 他の事例は承知している。今後検討していきたい。

Q こども園の建設費は当初8億円の計画だったが12億円になっているのはなぜか。

A 玉川村、古殿町の他施設を視察し検討した結果、建物面積3,500㎡（1,060坪）として坪単価は約100万円と見込み約10億円と計上した。

若者定住促進住宅団地

当初末広町の若者定住促進住宅は、22戸の賃貸の計画であったが、町内の宅地需要はあると見込み、宅地分譲に変更となった。景観の統一という考えから、建売も検討しているという。

Q 他の自治体では固定資産税免除など優遇がある。売値を安くする考えはあるか。



振興計画変更事業に対してたず

あぶくま高原美術館

旧那倉小学校を利用し平成16年4月にオープン。埴町出身の画家杉三郎氏、書家鈴木勝富氏の作品を展示し、4月1日～11月30日に開催している。施設の管理は、那倉朝日クラブ（地元老人会）に委託している。

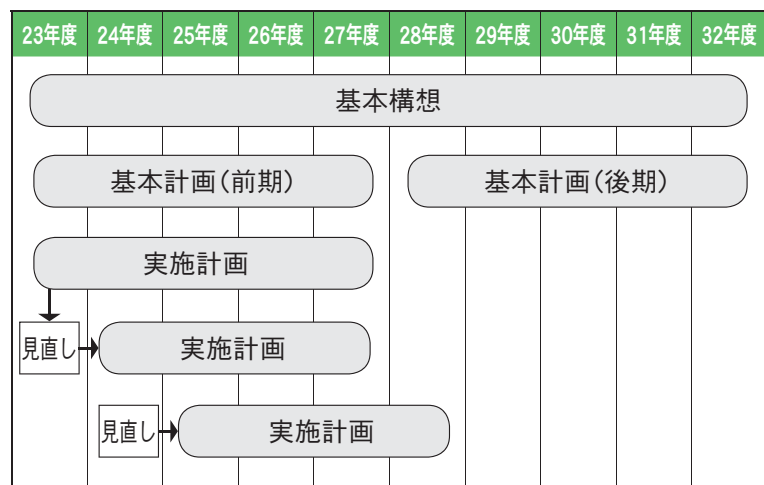
Q あぶくま高原美術館を廃止するというが、どのような検討をしたのか

A 年間170万円の維持経費がかかっており、利用者は年間約500人である。費用対効果を勘案し廃止ということにした。地元との協議はこれからとなる。

実施計画とは

実施計画は3年に一度見直され、基本計画の施策を詳細に具体化し、新たな事業も検討することで、毎年度の予算編成の指針とするものである。

山水花のまちづくり 構成と期間



計画期間は3年とし、毎年度事業計画を策定するローリング方式を採用。実効性の確保に努めている。

（仮称）はなわこども園

平成30年度完成予定

町は、少子高齢化に対応するための健康福祉センターを計画していたが、本年度の実施計画で新たに見直された。名称を「はなわこども園整備事業」とし、保育園と幼稚園を統合したこども園と一時預かりなど、子育て支援を行う施設にすると再提案された。また、12月議会では、はなわこども園開園までの間、保育園の待機児童解消のため仮設保育室を設置する補正予算が出され可決された。



こども園建設予定地

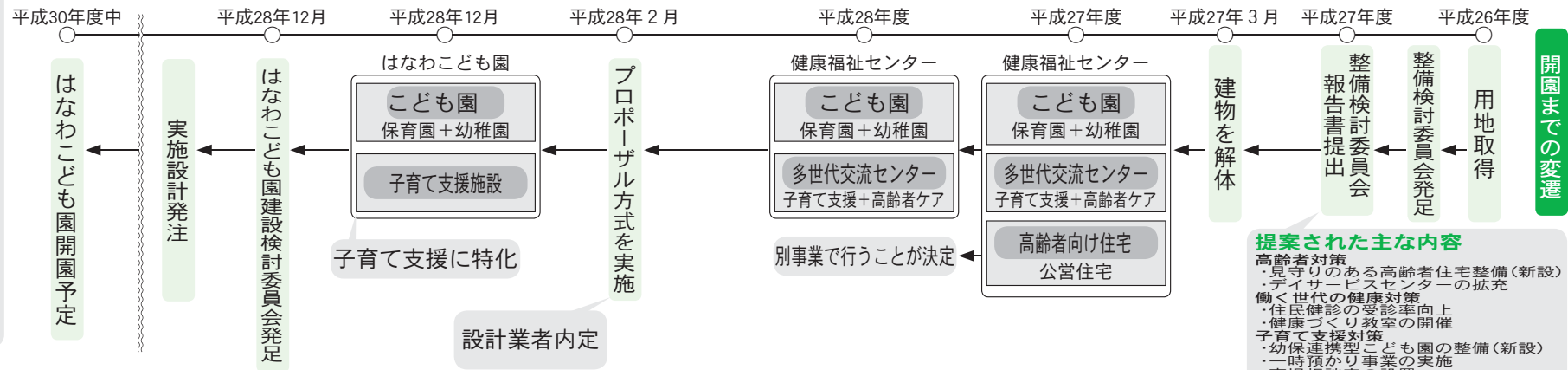
大きく変更された建設計画
以前計画されていた健康福祉センターは、①保育園と幼稚園を統合したこども園

園②子育て支援や高齢者のケアを一体的に行う多世代交流センター③高齢者向け住宅の3施設が検討されていた。その後、高齢者向け住宅は別事業で行うこととし、こども園と多世代交流センターの2施設を建設することが決まった。さらに今回、こども園はそのままに、多世代交流センターに含まれていた高齢者のケア部分をなくし、子育て支援に特化する方針が再提案され、今後検討委員会の意見を取り入れながら、設計業者とともに協議を進めていくことになる。

新しい子育て支援の場
予定されている子ども園では、保育園と幼稚園、子育て支援センターが併設され、育児相談室や子育てサロン、一時預かり支援ができる体制となる予定だ。これまでの町の子育て支援は、担当課が分かれていることや、場所が一カ所でないことなどが問題となっていた。平成30年度中完成を目標に、本年度に実施設計を発注予定となっている。

質疑
Q 以前プロポーザルで提案された建物は全部造るのか。
A 概ね、以前から計画されていた建物を造る。こども園は従来通り、多世代交流センターでは健診や一時預かりなど子供に関するものを造る考え。なお、子育てに特化する考え方に沿った形に今後整理していく。

Q 坪100万円は相当高いか。
A 分離発注をして地元企業にお願いしたい。図面ができたなら早急に相談する。



仮設保育室を増設

はなわこども園開園までの待機児童解消のため、保育園に保育室を増設するための補正予算が可決された。震災の仮設住宅を利用して、約100平方メートルの敷地に2室設置し、3月には完成させる計画。

現在、保育園の入園児童は定員70名に対し、77名。待機児童は例年10人前後いる(現在13人)が、この仮設保育室によって当面は解消される見込み。

埴保育園入園状況(H28.12.1現在)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	合計
入園者数	7	28	19	23	77
待機者数	3	2	7	1	13

はなわこども園
建設検討委員会立ち上げ

12月22日(木)、はなわこども園建設に向け、第1回検討委員会が開催された。委員会メンバー15名に対し委嘱状の交付が行われ、設計業者からこれまでの経過と設計構想計画について説明があった。今後、3回のワークショップを開催し、意見や提案を取り入れ協議が進められていく。

委員長	松田 圭一	(保護者代表)
副委員長	益子 和憲	(教育委員会職員)
委員	鈴木 康夫	(教育委員会職員)
	北郷 恭子	(埴幼稚園園長)
	金澤 幸子	(常豊幼稚園教諭)
	小松 隆	(保護者代表)
	鈴木 明子	(笹原幼稚園教諭)
	鈴木 明好	(保護者代表)
	木田 恵子	(埴保育園園長)
	高久 譲二	(保護者代表)
	西郷 桂子	(めだか保育園長)
	大森 和枝	(子育てサロンスタッフ代表)
	大友 彩子	(子育てサロン利用者代表)
	柳沼 隆久	(商工会青年部)
	南篠久美子	(商工会女性部)

(敬称略)



青砥ハツ子さん 元さめがわこどもセンター長に聞く

「保育一元化」は 保育現場の声の大事

国は近年、幼稚園と保育園を一元的に扱う認定こども園を推進している。さめがわこどもセンターは、国が推進する以前から幼稚園と保育園を同敷地内で一体的に行う運営をしており、幼保一元化のモデルとなっていた。幼稚園と保育園が互いの垣根を越えて取り組む保育が全国から注目を集めている。

「さめがわこどもセンター」が誕生したきっかけは

当時、鮫川村には1つの

幼稚園と2つの保育園がありました。

以前から保護者の意見を

重視し、土曜保育や一時預かり保育、保育園と幼稚園の交流保育などを行い保護

者の意見をできるだけ反映させるよう努力していましたが、施設の老朽化や日当たりの悪さがありました。また、幼稚園と保育園それぞれに子供を預けている保護者の方は、日々の送り迎えや行事に参加することにとても苦労されていました。それに、幼稚園の保育時間は夕方4時まででした。（預かり保育は制度化されてなかった）今後3つの施設をそれぞれに充実させるのは、村の財政からみて困難な状況と見えました。そこで、幼稚園と保育園をひとつにできれば、これを解決できるのではという取り組みが始まりました。

危機感を感じ 保育者が奮起

「どうやって意見をまとめ上げていったのですか」

鮫川村は、幼稚園と保育園の人事交流が当たり前で、一緒に研修会に参加す

「一致団結！ 課を飛び越えた協力体制を進めていかれたのですか」

町村合併せずに「自立の道」を歩むことになってから、全職員参加の行財政の見直し作業がありました。

私たちはその時に、幼児教育検討会で練り上げた案を提出しました。役場職員の中には現状のままではない意見もありましたが、話し合うことで理解して頂きました。村長の後押しもあり鮫川村として一つの方向を向くことができ、所管課を越えての協力体制を進めることができました。

「どのような成果が得られたと思いますか」

保育者たちは、多様な意見や保育に触れることができ、お互いに刺激になり、よりよいものをつくりあげようとする意識が高まってきました。幼稚園児が保育園児の面倒をみようとする姿が見られたり、幼稚園と保育園が共通の行事をすることで保育園児が幼稚園児の活動に興味や関心を持ち憧れ・目標になりました。幼稚園児は自信をもてるよ

「廃校になった小学校を利活用していると聞きましたが」
当時、鮫川村は町村合併をしない選択をし、財政的にとても厳しい状況でした。そのような中で、村民の方から今ある建物を使っ

うになってきたように思いました。保護者にとっては、行事や送迎が一度で済むことで、負担が少なくなったと思います。

保育方針が大切

「幼保一元化に大切なことは」

幼稚園・保育園の枠にとらわれず子どもたちの目線に立って考えることです。さめがわこどもセンターでは、0歳児から就学前までの「保育カリキュラム」を作成し計画や方針を確立しています。保育者の考え方の統一にも大変役立つものでした。

また、現在どこの市町村でも保育者の人数が少ないことが問題になっていきます。子どもが減少し続け、始めた時期から正職員として幼児教育の職員を採用しなくなってきた傾向がありました。しかし、保育者の身分を保障しないで保育の質の向上は難しいと思います。

保育者意見の反映を

「最後に埴町のこども園について」

町の大切なお金を使ってつくられる施設です。子どもたちや保護者の状況を熟知している関係者の意見を尊重し、ぜひ埴町ならではの幼児教育施設をつくってほしいと思います。保育現場からの声もたくさん届けてほしいと思います。同一施設にまとめて、共通し

た保育理念がなければ幼稚園、保育園それぞれにマイナスになってしまいます。建物ありきではなく、誰のための施設かを考え、十分に検討した子育て方針を作っておきたいと願っています。

さめがわこどもセンターは、平成15年3月に廃校となった旧西野小学校校舎を活用し、幼保一体化施設として平成16年8月から整備し、平成17年3月に完成した施設。施設には、保育園と幼稚園、子育て支援センターが整備され、平成17年4月から運営を開始した。



施設開園までの取り組みをまとめた「さめがわこどもセンター誕生物語 “幼保一元” と過疎の村の選択」を発行。（ひとなる書房）



学校給食の地産地消の取り組みは 新たな供給体制を協議



鈴木 安次

質問 学校給食食材の購入方法は。

答弁 町内業者などから見積りを取り、安いところから購入している。

質問 食の安心安全は確保されているのか。

答弁 購入時に、生産日と産地の報告を義務付けているが、市場を通ったものに問題はないと考えている。町内産の食材は、放射能検査を確認している。

質問 道の駅農産物直売所から、食材を購入して欲しいと要望があったが、どう考えるか。

答弁 地元産は優先したい。必要量など年間計画を立て、供給が可能なのか協議していきたい。

給食費無料化

質問 給食費無料化を進めるといいますが、学校給食審議会でのような話がされたのか。

答弁 これまで無料化の話はでていない。

質問 無料化にあたっては振興計画に計上し、進めると言っているが、計上されていない。実施しないのか。

答弁 ぜひ実現したい。計画には何らかの形で載せたかったが、給食費として歳入が減少するだけなので、振興計画の書式上、無料化を示す内容が載ってこなかった。

嘘をつかない政治が、町民に信頼される近道である。ゴマカシのない、心のこもった自らの言葉で発信すべきである。

こども園建設、慎重な検討を

質問 基本的考えがあまりない。こども園建設はもつと検討したい。



子ども達がすくすく育つ環境づくりを

質問 基本設計が出来てから検討する。平成30年度中の開園を目指している。

質問 基本設計ができてからでは遅い。十分検討してから建設に取り掛かっては。

答弁 現施設は老朽化している。一日も早く建設したい。

質問 委託業者からの提案だけで進めると建設費が増大しやすいと聞く。十分に検討されているのか。

あぶくま高原美術館廃止

質問 なぜ廃止か。

答弁 施設老朽化、費用対効果、特に、管理者の高齢化などから判断した。

質問 これまで利用者を増やす方策をとってきたのか。

答弁 自主展示会など、毎年さまざまな取り組みをしている。

質問 地元への説明は。

答弁 まだしていない。今後協議したい。

給付型奨学金導入

質問 町内就業者などを対象に、返済不要の給付型奨学金を取り入れる考えはないか。

答弁 財源や対象者の選定を初めとする諸課題があるので検討が必要。

答弁 建設費の圧縮、維持管理の削減を図り設計をしたい。

町政をただす

一般質問とは

議会とは、住民の皆さんに代わって町の行財政の運営を監視する役割があります。

一般質問は、その議会を構成する議員に与えられた権利です。町の事務の執行状況や町の将来への考え方について、報告や説明を町長に求めます。町民のための適切な町政運営が進められているか、質問するものです。

- 鈴木 安次
 - 給食費無料化
 - こども園建設
 - 給付型奨学金
 - あぶくま高原美術館廃止
- 鈴木 茂
 - 子どもの教育
 - 農業の担い手と特産品
- 下重 義人
 - 工業団地のアクセス道路
 - 予防接種事業及び野生動物物媒介による病気
 - 町のイメージアップを図る花
- 吉田 克則
 - 行財政改革
 - 風評被害払拭
 - 原発事故の損害賠償請求

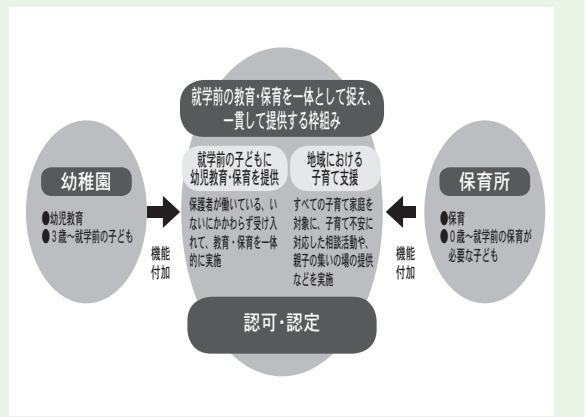
- 七宮 広樹
 - 敬老会
 - 割貝 寿一
 - 副町長の不在
 - 給食費無料化
 - 旧薩摩酒造跡地利用
 - 高縁 光
 - 原発事故の放射能線量推移
 - 町の情報公開の在り方
 - 茨城県の風力発電計画の対応
- その他の一般質問
 一般質問はこのほか、小林達信議員(少子化対策について)が行いました。

就学前の新たな選択肢 認定こども園とは

認定こども園は、少子化や家庭環境の変化に伴い、保護者や地域の多様化するニーズに応えるため、平成18年10月に創設され、以下の2つの機能を備えたもの。

- 就学前の子どもに幼児教育・保育を提供する機能
※満3歳未満の保育を必要とする子ども
- 地域における子育て支援を行う機能
(子育て家庭を対象に、子育て不安に対応した相談活動や、親子の集いの場の提供などを行う)
を備える施設をいう。

- 認定こども園の普及より、下記のような効果が期待されている。
- 保護者の就労の有無にかかわらず施設の利用が可能
 - 適切な規模の子どもの集団を保ち、子どもの育ちの場を確保
 - 待機児童の解消
 - 地域の子育て支援の充実



出典：内閣府ホームページ
<http://www8.cao.go.jp/shoushi/kodomoen/gaiyou.html>

「町の宝」である、子ども達の教育は きめ細やかな取り組みで成果を



鈴木 茂

県内に子どもの教育で活気づいている2つの町がある。まさに現代版「米百表の精神」である。特別な能力を持つ子ども達によって町が救われるかもしれない。

質問 生まれ育った地域に残りたいと思う子ども達を育てなければ町の人口減少は防げない。そのような子どもを育てる教育「仮称里育」をどのように進めて行くのか。

答弁 進んで学び夢を
実現できる人材の育成、町を誇りに思い強く優しい心の育成、古里に親しみ心を潤す文化の信仰と伝承について推進している。またいろいろな科により町

の現状や良さについて学ばせ、地域の人との交流を進めており一人でも町を好きになり地域に残りたい子どもを育てて行きたい。

質問 小中学校で地域を理解するための授業はどのようなことを教えているか。

答弁 小学校は、総合の時間で、町の自然や特産物についての調査、栽培体験、福祉施設の訪問、川や水田の中の生きものの調査、地域の歴史の調査などを行っている。

質問 指導主事、学力向上推進会議、教育推進員制度、授業研究会の開催などで教員の指導力の向上につとめた。また、幼稚園、小学校、中学校の連携



中学校2年生が体験学習として職場体験

見発表をさせている。質問 子ども達の心に残る取り組みをしてもらいたいが。

答弁 先進的な事例を学校に紹介して取り組みたい。

質問 教育長の学校訪問がなぜ遅れたのか。

質問 子どもの達の長距離走の底上げを図るべきと思うが。

工業団地へのアクセス道路を今後どう考える 県と共に検討していきたい



下重 義人

町の政策がこれで正しいのか、議員ながらいつも心にも思う。

質問 工業団地へのアクセス道路の安全性は保たれているか。

答弁 林間工業団地に関しては、北野松岡線および上福沢線があるが、町道塙棚倉線は幅員が狭く、多くの大型車が通行していることもあり、危険性が高いと認識している。子供たちの通学路は、農道を利用してはいる。



道幅が狭く、大型車の通行もあるアクセス道路

質問 今後、塙小学校と常豊小学校が統合された場合、通学はどうなるのか。

答弁 スクールバスや福島交通バスを利用して安全なルートを保つ者の皆様と検討していきたい。

質問 工業団地へのアクセス道路の安全性は保たれているか。

質問 菅原地区、常豊地区の発展のためにも道路が必要ではないか。

質問 指導主事、学力向上推進会議、教育推進員制度、授業研究会の開催などで教員の指導力の向上につとめた。

質問 子ども達の長距離走の底上げを図るべきと思うが。

質問 野生物物および蚊などが媒介したような病気の事例はなかったのか。

町のイメージアップが図られる花はないのか

どう進める、行財政改革大綱を策定する

質問 町長は9月議会にて、町財政の経常収支比率が悪化しているため、思い切った「行財政運営の抜本的改革」を行っていくことが必要と挨拶されたが、どの様に「行財政改革」を進めていくのか。

答弁 町長を本部長とし、各課等の長をもって組織する行財政改革推進本部を組織する。実質的な調査、検討、原案策定は係長クラスを中心にプロジェクトチームを設置し、町政に優れた見識を有する団体の長や学識経験者で構成する行財政改革推進委員会を組織し、行財政改革推進本部からの行財政改革大綱案の諮問に答申をす

質問 町長は9月議会にて、町財政の経常収支比率が悪化しているため、思い切った「行財政運営の抜本的改革」を行っていくことが必要と挨拶されたが、どの様に「行財政改革」を進めていくのか。



池袋サンシャインで行われたはなわダリアのPR活動

風評被害払拭の取り組みは

質問 原発事故に伴う農産物の風評被害払拭

について町長就任以来どの様な取り組みをしてきたのか。

答弁 都市交流先での農産物、物産品の販売を継続して実施。コメのPRとして東京葛飾で新米フェアを開催するなど風評被害払拭に向けて取り組みをした。また、はなわダリアをPRするため、今年新たに池袋サンシャインで3日間PR活動を行った。

の学校給食に埴町産米を食べてもらう取り組みは出来ないか。

答弁 機会をつくり両区に進言していきたい。



吉田 克則

風評被害払拭の妙薬が開発されればと何時も考えています。

原発事故の損害賠償請求

質問 被害が出ている限り損害賠償を求めていくことが当然と思うが。

答弁 原発事故で被害が生じているものについては、請求は当然と思う。必要な措置などは、町としても対応を考えて行きたい。

農産品安全性のPRとして、体験ツアーの収穫体験やコメの全袋検査場を見ていただくため、今年新たに池袋サンシャインで3日間PR活動を行った。

質問 都市との交流先である練馬区・葛飾区

今後の敬老会は町から区に移行する



七宮 広樹

更に重責を担う行政区長

質問 区主催で行っている矢塚地区と、それ以外の区を対象とする埴地区の敬老会があるが、現状をどう把握しているか。

答弁 敬老会を軽視していたわけではなく、招待者が楽しく過ごせることを取り入れながら進めてきたが、全国的にも敬老会の参加者が少ない傾向にあり、今後の敬老事業をどう行っていくか見直しが必要と感じた。



町内の75歳以上の方が招待される敬老会

質問 今後経費の見直しはどうするのか。

答弁 主催を町から区に移行することを振興計画に計上した。経費の見直しも図りたい。

質問 平成29年度から、町から区に敬老会の開催を移行することだが、町の今後の対応は。

答弁 自主的に区で敬老会事業を開催していただく。区内の80歳以上の方を対象に一人3,000円の補助金を交付し、行政区の対応に任せていく。

質問 計画を実施するにあたり、高齢者の意見の把握と、住民への説明は。

答弁 平成29年度の予算可決後に、行政区長会と協議を進め、アンケートなどの調査を行い意見を把握し、町民に理解を求めていく。

救急医療情報キット：一人暮らしや家族のいないときに急病で倒れてしまった場合は、救急車を呼ぶことも、病氣、持病、血液型、どんな薬を飲んでいるか、緊急通報先などの情報を救急隊員に確実に発することが出来る。

副町長の不在どうする 4月1日就任を目途に進めている

質問 7月15日、町長就任後、議会に副町長が欠席となっているが、選任はどのようなものか。

答弁 平成29年4月1

日就任を目途に人選を進めたい。
質問 副町長不在で業務に支障はなかったか。

答弁 できる限り一人

でやってきた。副町長が就任した際には、内務は副町長に任せ、外交に力をいれたい。



給食センターでは一日約900食をつくる

給食費無料化

質問 給食費無料を望んでいる保護者はどのくらいいるのか。また、埴町より財政が豊かな自治体は他に多くあるが、無料化していない。給食費一食300円は原価である。まわりを見ても支払に苦労しているとは見受けられない。給食費収入は、年間3800万、10年でも3億8000万円にもなる。もっと慎重に検討すべき。

答弁 選挙運動中、若いお母さん方と話す機会があった。多くの家庭は夫婦共働きで生活する現状であり、年間の給食費の6万円弱が



割貝 寿一

副町長の早期就任を願う

旧薩摩酒造跡地の利用

質問 東白衛生組合の最終処分場造成による土を大量に旧薩摩酒造跡地に運んでいるが、他に計画があるか。

答弁 旧薩摩酒造南側で、アクセス道路から20mすりばち状になっているところには敷地がある。土地の活用は難しい所。衛生組合の土を受け入れることで1ヘクタールの平場が可能になるため企業誘致の場所として検討している。

原発事故後の放射能の推移は 大幅に減少している



高縁 光

質問 原発事故による焼却灰の放射能線量の推移は。
答弁 原発事故後の9月時点は880ベクレル、平成25年11月に117ベクレル、平成28年11月で40ベクレルとなり、大幅に減少している。
質問 処分場の排水検査はしているのか。検査しているのであれば、放射能の推移は。
答弁 排水の放射能検査は、定期的に検査を実施している。原発事故直後の8月時点では、検出されず。平成25年に3.9ベクレル、平成28年11月で7.4ベクレルで、非常に小さな値となっている。

質問 現在工事が進められている一般廃棄物処理場工事並びに排水計画は。
答弁 一般廃棄物処理場第2期分の建設工事は、現在の最終処分場に隣接している塩沢地内で行っている。埋め立ての面積は、6700平方メートル、埋め立て容量は2万8200平方メートル。処分場の使用期間は平成30年から20年間を予定している。
排水計画は、水処理方式及び汚泥処理方式で行う。排水路を經由して渡良瀬川に放流する予定。



一般廃棄物処理場第2期分は、最終処分場に隣接した場所に建設中

荒廃する農地。
中小農家の弱体化。
寂しさを感じる

町の情報公開の在り方

質問 国保の運営や、町内の風力発電の情報公開がこぼれた。町は町民に情報を多く開示すべきと思うが。
答弁 国保運営は、諮

問前だったため情報提供が出来ず、風力発電については、県の管轄であるという説明をした。公開できるものは、一定の手続きにより開示請求できる。

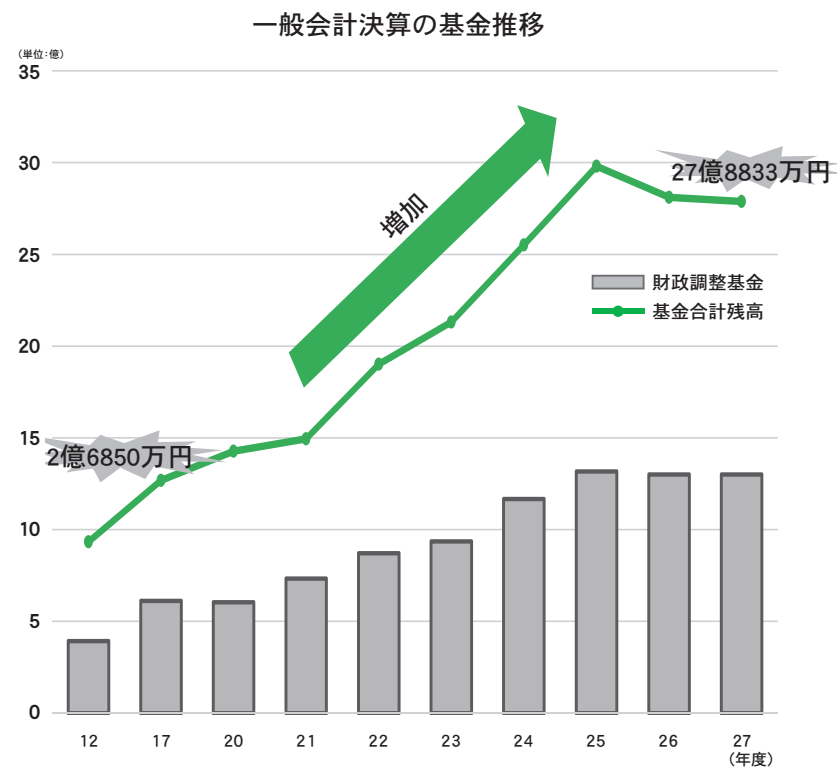
茨城県の風力発電計画の対応

質問 風力発電設備に囲まれると騒音など影響がでる。町内は大丈夫か。
答弁 配置計画は、必要な施設及住居などから800メートル以上の隔離を確保した計画となっているので、該当する住居は町内にな

質問 風力発電事業にともなう工事や道路などの災害の対応は。
答弁 原則、事業者の対応となる。町道部分に関しては、事業者と協議をしていく。

町の貯金10年で倍増

基金の総額は、平成27年度末で27億8833万円で、前年度に比べ2300万円減少したものの、10年前に比べ倍以上になっている。「財政は厳しい」というが町の貯金は着実に増加してきた。



基金は、一般家庭で言えば貯金にあたるもので、いざという時のため大切なお金として蓄えておくものや旅行積立のようにある目的のため積立しているものなどがある。(下表参照)

これら基金のうち財政調整基金は「いざという時のため」の貯金で、各自治体に不測の事態が起こっても住民が困らないように、法律で設置が義務付けられている。まさに、貯金の中の貯金である。本町の財政調整基金の額は、平成27年度末で約13億円、基金総額の約半分を占める。そもそも、

財政調整基金は、翌年度繰越金(収入支出差引額)の2分の1以上を積み立てなければならぬ規定になっており、使わなければ毎年増加することになっている。

一出づるを量りて入るを制す
一般家庭での家計維持の原則は「入るを量りて出づるを制す」といわれる。収入の範囲内で支出するということが、災害や病気など一時的な多額の支出に対応するためには貯金が必要であり、これは多ければ多いほどよい。これを国や地方自治体の財政にも当て

(単位:千円)

基金の種類	主な基金	残高
①特定の事業目的のために貯える基金 12件	公共施設等整備基金	817,084
	庁舎建設基金	190,657
	福祉基金	180,076
	地域振興基金	169,551
②財源が不足した際に補充するための基金 2件	財政調整基金	1,299,896
	減債基金	33,417
③資産運用を行う基金 3件	土地開発基金	101,164
	奨学資金貸付基金	61,157

町の基金は大きく3つに分けられ、積立基金14件、定額運用基金3件の計17の基金を設置している

はめるべきという考えもあるが、そもそも税金は住民にとつて必要な分だけ徴収するのが原則であつて、その負担配分を決めるのが政治の重要な役割とも言われている。必要な時に必要な額を集めるといふ考えもある。したがつて、税金や会費などで運営する団体は「出づるを量りて入るを制す」が原則といえる。現実には、急に税金を上げることはできないので、不測の事態に備えるために一定規模の蓄えは必要となつてくる。

額は標準財政規模の10%程度が適正としている例が多い。これを本町に当てはめると平成27年度における財政調整基金の適正規模は約4億円となるが、現積立額はその約3倍になっている。

?標準財政規模
地方公共団体が、合理的かつ妥当な水準で行政をおこなうための標準的な一般財源の規模を表す指標。使い道を自由に選択できる財源の大きさのこと。
本町の平成27年度における標準財政規模は約37億円。

それでは、財政調整基金はいくらあれば安心なのか。

平成28年9月定例会一般質問で「私も当初から10億を超える金額があれば、基本的には安全だと思つております」と町長が答弁しているように10億円を一つの目安として積み立ててきた。

一方で、財政調整基金の

郡内町村の財政調整基金の状況は表のとおりである。なお、対標準財政規模の県平均は、浜通り地方の町村の多くが100%を超えているため比較的高い数値となっているが、これらを除けば約37%となり、本町はほぼ県平均である。

郡内町村の財政調整基金(平成27年度末)

	財政調整基金残額(千円)	対標準財政規模(%)
塙町	1,299,896	35.5
棚倉町	1,066,558	25.3
矢祭町	1,975,197	76.3
鮫川村	885,636	41.5
県内町村平均	1,535,799	45.5

福島県総務部調べ

今 将来を見据えた政策と基金

後、人口減少や少子高齢化の影響を強く受けることが予想される。このため、将来に向けた基金積み立ては重要であるが、限られた税金を有効に使い将来に備えることも貯金と同様に重要なことである。

地方交付税が減る!? 地方基金累積を強調



国は地方公共団体の財政状況に応じて地方交付税を配分しているが、毎年地方交付税が多額になっており、一部借り入れをしながら配分を行っている。塙町は、平成27年度で28億3503万円の地方交付税が配分されており、歳入の約3割を占めている。歳入の大きな部分を地方交付税に依存する財政構造になっている。

2 017年度予算編成に向け、国の財政制度等審議会(財務相の諮問機関)は、地方公共団体には多額の基金があるとして、地方交付税の抑制を提言している。

一〇メモ

総務相の諮問機関である地方財政審議会は、地方の財政構造は依然として厳しいと対立する意見を提言している。

笹原小学校

議会傍聴で地域を知る

笹原小学校の児童17人が12月議会の一般質問を傍聴した。町の仕組みについて理解を深めるため、社会科の授業の一環として毎年6年生が訪れている。また、各学校では、地域の人との交流や体験活動を通して、町を理解する取り組みを行っている。



やっぱりふるさとで暮らしたい

白石 修也君

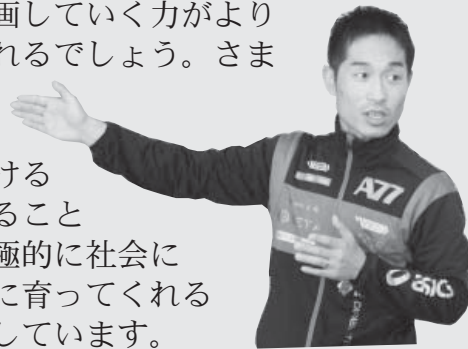
議会を見て思ったことがあります。それは、埴町の状況です。僕には、分からない少子高齢化で人口が減っていて、それで若者が他の町・県などに移住するということです。ちょっと衝撃でした。東京に住んでみたいと思う時もあります。でも、議会を傍聴して自分も都会に出るのはいいけれどやっぱりふるさとで暮らしたいと思いました。そして、一人でも多くの人に埴町を知ってもらいたいです。

積極的に社会に関わる大人へ育て欲しい

小学校6年生の社会科の授業では、国や地方議会の仕組みについて勉強します。国や地方の政治が、国民生活に大きく影響することを理解するために、学習に取り組んでいます。

授業を進めていくと、多数決の原理など普段の学校生活の中でも活用されていることに気付かされます。また、町民の代表者である議会の決定で、身近なことが決められていることが分かると、児童たちも積極的に町の未来を考え、選挙の意味について考えるようになります。

変化の激しい時代にあって、子どもたちは社会に参画していく力がより一層求められるでしょう。さまざまな形で、国や町の政策に目を向ける機会をつくることにより、積極的に社会に関わる大人に育てられることを期待しています。



6学年担任 戸井田修先生



①議会を真剣に傍聴

12月16日(金)、議会の一般質問を傍聴する笹原小学校の6年生。傍聴後のアンケートでは、「内容は難しかったけど、やり取りは見ていて面白かった」「役場にこんな場所があるとは知らなかった」などの感想が多かった。「また来たいですか」の質問には、13人の児童が「また来たい」との回答だった。



③議会のしくみを抜き打ちテスト

議会のしくみについての穴埋めプリントが配られ、抜き打ちテストがスタート。児童たちは、傍聴した日を思い出しながら、議員の人数を考えたり、グループになって答えを出し合っていた。



④要望を実現するには

どうすれば、町民の願いが実現するのか。町と議会の関係性や、議員と議会の内容を通して、児童たちにとっても身近な事がどのようにして決められているのかを学習した。



⑤議員はみんなの代表

また、議会の議決は、町全体の意思決定となり、議員は町民の代表者であること。その代表者は、選挙で選ばれるなどをまとめていた。



②僕たちが考える町への要望

12月20日(火)、議会傍聴後の授業では、傍聴をしての感想を書いたり、児童たちが考えた町への要望が発表された。博物館や動物と触れ合える施設、塾を作って欲しいなど、思い思いの考えが出されていた。

追跡 レポート

あの質問 どうなった？

議員の一般質問の中からピックアップし、その動き・現在の状況を調査します。

●平成 27 年 12 月定例会

道沿いの危険な空き家を撤去すべきでは

質問

町内の県道沿いの空き家には、通行人や車に危害を与える恐れがあるものがある。町が撤去を要請すべきと思うが。



答弁

危険個所については、所有者にお願いして解体していただく。



その後

危険空き家の認定は、法律に基づき町が設置する協議会が行うことになるが、埴町ではまだ設置していない。

一〇メモ

平成 27 年に空き家対策特別措置法が施行され、特定空き家等（使っていない危険空き家のこと）に指定することによって、町は持ち主に対して修繕や解体を求めることができるようになった。最終的に改善されなければ、町が強制撤去することができる。（費用は所有者持ち）特定空き家等の指定は、専門家などで構成する協議会で判定する。

●平成 27 年 12 月定例会

森林再生事業

質問

平成 32 年度までの 5 年間で森林再生事業を行うというが進捗状況が思わしくない。今後の進め方は。



答弁

平成 26 年度事業を翌年度に繰り越して実施している状況だが、各地区で説明会を開催し、事業を推進していく。



その後

平成 27 年度 25ha（大蔵地区）、平成 28 年度 57ha（大蔵、田代地区）を実施、昨年 11 月から町内 14 か所で説明会を開催した。現在 20 地区、350ha の申し込みがある。

一〇メモ

町が、個人所有山林の間伐や作業道の整備などを行う事業で平成 32 年度までの全体計画は 1500ha。荒廃林や間伐が必要な山林で、1 地区概ね 10ha 以上の面積を実施したいとしている。小面積の所有者でも近隣山林所有者と共同で申し込みができるので、実施に向けて地域で話し合っていたきたいとのこと。

委員会 レポート

総務、経済常任委員会

過疎を生き抜くために 先進地視察研修



10月19日（土）21日（月）総務、経済の両常任委員会は合同の視察研修を行った。

川西町

山形県川西町の吉島地区は全世帯約300戸の集落で、NPO法人きらりよしじまネットワークという地域組織を立ち上げ、住民主体のまちづくりに取り組んでいた。「地域のことは地域で行う」というこれからの行政の在り方を先取りする形で、高齢者見守りや買い物支援サービスなど、行

政では行き届きにくい、きめ細かなサービスを行っている。「行政に依存しなくても自分たちでできる」という住民の意識が過疎を生き抜くための最大の武器であると感じた。

最上町

最上町は、人口9,000人、面積の84%が山林で、当町と同じような規模である。高橋町長から子育て、健康づくり、産業振興、里山再生など「自治協働のまちづくり」について説明を受けた。

注目すべき点は、集落に使えるお金を与える（自治交付金制度）や、完璧にちかい定住促進のための補助金事業である。地域住民に集落づくり計画作成を促すなど地域力向上を促進するほか、定住者呼び込みのための100万人交流事業とその受け入れ態勢づくりなどすべての事業が密接につながりあっている印象を受けた。

総務常任委員会

常豊小、常幼 埴へ統合

教育施設適正配置計画を調査

10月28日（金）、教育施設の統廃合など町の教育施設適正配置の検討状況について調査した。町は、平成18年から小学校、幼稚園などの適正配置を検討してきた。この間、児童数の減少により片貝小学校、高城小学校などが統合されてきたが、改めて将来の在り方を論じるため、有識者の委員会を設置し協議してきた。

現在、常豊小学校では5、6年生と3、4年生が腹式となっている。このようなことから、教育委員会は、平成30年4月から埴小学校に統合するとして、各方面に理解を求めている。なお、委員会報告によれば、常豊小学校の統合により町内の小学校は埴、笹原の2校になるが、将来的には1校とすることが適当としている。

大衡村議会が来町

タブレット端末の利用など

11月16日（水）、宮城県大衡村議会議会運営委員会が議会運営と議会改革の視察研修のため来町した。

高萩市議会との交流

10月4日（火）、茨城県高萩市議会との交流研修会を行った。県道高萩埴線の整備状況を聞いた後、十王町にある森林総合研究所を視察した。

議会だよりモニターさんの声

今回は、議会だより136号(28年10月21日)について寄せられた意見を掲載します。

◎決算内容(特集その1、2含む)についてP2~9

- ・水道料金や税金を近隣町村と比べる表は、他自治体と比較できて良い。
- ・表現が難しい箇所があり、小学生が見ても分かるような記事になっていない。

対応 難しい表現はできるだけ避け、噛み砕いて説明したい。

◎委員会レポートについてP20~21

- ・委員会とはどんな役割を果たしているのか、説明が欲しい。

対応 今後掲載していきたい。

◎追跡レポートP19

- ・経過が時系列になってより分かりやすくなっている。
- ・何が議題で、どれが動き(その後)なのか、単調で分かりにくい。一目で分かるように配置に変化をつけては。

対応 見やすいレイアウトにしていきたい。

◎その他

- ・見出しが見やすく分かりやすいものになっている。
- ・裏表紙は、発行時期と季節感のある記事がうまく合っていてよかった。町内の隠れた名所を紹介するのはとてもいい。

私もひとこと

委嘱されたモニターさん2人に議会だよりについてご意見をいただきました。



小林 静子さん
(埴地区)

連携強化し
医療福祉の充実も

今期より議会だよりのモニターに委嘱いただき議会だよりを良く読ませていただいております。今考えることは、

埴町を活性化させるにはどうすれば良いのかということですが、これも園の建設なども議論されていますが、未だ来のある子供達を安心して育てられる支援や対策を切に望んでいます。医療や福祉もいろいろな課題を抱えていると思います。行政や関係団体とも連携強化して福祉施設などのことも今後どうあるべきか考えて頂きたいと思っております。



近藤 文男さん
(常豊地区)

民意優先の議会運営を

議会だよりモニターを引き受け、すでに3回の感想を提出しました。私の感想はといいますと、議会や議

員に対して質疑的で、議員の方にはいささか気を悪くしていることお察しいたします。他のモニターさんから素晴らしい意見感想が出ていますので、一人変わった奴がいますが、議会のためになると確信しています。以前、議長も「町民の意見を聞いてより良いものを作る」と言っているとおあり、とにかく民意優先の議会運営をして欲しいと思っております。

町民と町議会の意見交換会を開催します

参加申し込みは必要ありません。どの会場へも参加できます。ぜひお出かけください。

意見交換会日程一覧

実施日	会場	出席議員
2月14日(火) 午後7時~ 午後8時30分	埴町公民館 高城地区館	大縄武夫、小林達信、 割貝寿一、鈴木安次、 青砥與藏、下重義人、 七宮広樹
	埴町公民館 那倉分館	鈴木孝則、藤田一男、 小峰由久、鈴木 茂、 吉田克則、高緑 光、 吉田広明
2月15日(水) 午後7時~ 午後8時30分	埴町農村勤労 福祉会館2階	大縄武夫、小林達信、 割貝寿一、鈴木安次、 青砥與藏、下重義人、 七宮広樹
	埴町公民館 笹原地区館	鈴木孝則、藤田一男、 小峰由久、鈴木 茂、 吉田克則、高緑 光、 吉田広明
2月16日(木) 午後7時~ 午後8時30分	埴町公民館 台宿分館	大縄武夫、小林達信、 割貝寿一、鈴木安次、 青砥與藏、下重義人、 七宮広樹
	埴町公民館 常豊地区館	鈴木孝則、藤田一男、 小峰由久、鈴木 茂、 吉田克則、高緑 光、 吉田広明

あなたの声を町政に
議員と語ろう
埴町議会 意見交換会

日時: 2/14(火)~16(木)
午後7時~8時30分

会場: 町内6会場で実施します

内容: 人口減少に立ち向かえ

「少子化、人口減少」をテーマに意見交換を行います。
子育て支援や若者定住など、議員といっしょに語りませんか。

議会活動出欠状況

平成28年10月1日~12月31日

年月日	会議名称	七宮広樹	下重義人	吉田広明	青砥與藏	高緑光	吉田克則	鈴木茂	鈴木安次	小峰由久	割貝寿一	小林達信	藤田一男	鈴木孝則	大縄武夫
28.10.4	高萩市議会との交流	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28.10.5	埼玉県伊奈町議会来町	○	—	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28.10.12	議員定数等検討協議会	○	—	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28.10.19-21	総務・経済常任委員会研修	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28.10.25	全国町村議会広報研修会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28.10.28	総務常任委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28.10.31	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28.10.31	町村議会議員研修会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28.11.4	経済常任委員会	—	—	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28.11.16	宮城県大衡村議会来町	—	—	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28.11.29	広報常任委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28.11.30	議員定数等検討協議会	○	—	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28.12.5	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28.12.7	議会運営委員会	—	—	—	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28.12.9	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
28.12.15-19	12月定例会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○出席 —該当外

議員は会議に出席する義務があり、正当な理由がなく欠席すると罰せられることがあります。議会では欠席の正当な理由として、配偶者・親族の葬儀(忌引)、病気・けが(傷病)、突発的の事故(事故)、その他議長が認める場合です。表ではそれぞれ、忌引、傷病、事故、その他と表記し、それ以外の正当な理由以外の欠席の場合は私用と表記しました。

皆さんの団体やサークルに広報常任委員が伺います。

団体の名称：塙空手道会

活動場所：第二コミュニティーセンター、町営体育館

代表者：橋本 孝一 TEL 43-0667

「礼を慎み、^{つつし}驕る^{おご}ことなく自己研鑽^{じこけんさん}」



塙空手道会は、日本空手道会系東流東日本本部塙支部として、東日本本部長吉成主計先生の指導の下、さらには、前教育長郡司正孝先生のお力添えと保護者の方々の協力を得て活動を行っています。

主に小学生を中心に、遠くは白河より生徒・指導者を含め総勢28名で活動を行っています。年2回の昇段級審査と東日本本部大会があり、広野町で行われた去年の大会は、全員が好成績を残し、「今年はさらに上位へ」と意欲的に稽古に励んでいる。

指導者の皆さんは、「大会で好成績を残すことよりも、やらねばならない事をやり、いざれ出くわす困難に負けず引かない、気力と体力を身に付けて欲しい」と子ども達への思いを話していました。

編集後記

新年おめでとうございませう。昨年12月は例年になく寒暖の差がある冬でしたが、定例会では8名の一般質問者があり町行政側と熱い論戦を交わしました。又町の振興計画により平成30年度中の子ども園開設の見通しや待機児童解消策として災害復興住宅を利用した保育園増設の補正予算が可決されました。しかし、人口減少を遅らし子どもを増やすという本丸の課題はこれからです。町、議会、それぞれに真価が問われます。

鈴木 茂

議会傍聴に おいでください

次回の定例会は、3月8日から開会される予定です。氏名の記入など簡単な手続きで傍聴できます。ぜひお出かけください。

広報常任委員会

委員長 吉田重
副委員長 下鈴木
委員 鈴木 廣
委員 鈴木 明
委員 鈴木 樹

※議事録は、議会事務局、またはホームページでも見られます。